

# ファイナル風

(現場)からの

宮田守男

「GOTO トラベル」に期待した4連休だったが、続く降雨には勝てなかった。英語の苦手な私だが、英文法を学んだとき「動

詞」で始まる命令形。「旅行に行くために行く」のような不自然な意味で、政府の観光に対する急ごしらえの施策が気にかかる。「GOTO トラブルだ」「感染拡大したら人災だ」が現実化しないように祈るばかりだ。

毎日、新型コロナウイルス感染の全国拡大報道が続ぎ、政府は緊急かつ大規模な財政出動政策を展開している。しかし世界経済は大きなダメージを受け、その証しとも言わ

言に對する悲觀的な発言が聞こえてこない。緊急時であり非常事態だ。この時期に財政赤字が「どうのこうの」と言っている場合ではなく何百兆だろうが、まさに躊躇せずに国債発行して使えとの声

が鳴りやまない。集中的に莫大な金額を瞬間的にばらまき、検査体制を整備した国と異なり、日本の場合はあらゆる分野に対して、小出しに「ちょこちょこばらまき」。この背景には、利害関係のあ

る政治家が多すぎて、あらゆる部分に配慮しなければならぬ事情が優先、各省庁別々での縦割りが問題、この報道になぜか納得してしまふ。

「経済と感染症対策の両方を同時にやっけて行く」方法は正しいのだろうか

だ。今を乗り越えれば、感染前の社会に戻れる、との安易な考え方は、感染拡大が繰り返し続き、国民生活が疲弊してしまつては、どうなるのか心配になってしまふ。

「経済と感染症対策の両方を同時にやっけて行く」方法を同時にやっけるが、寒くなる秋以降、感染爆発の本来の第2波がやっけてくると、分析する研究者がいる。今必要な事は、現状を分析して、将来のリスクをきちんと予測する力と、考えられる最悪のシナリオへの対応力が望ましいとの声に、

現行の施策が将来どんな評価がされるのだろうか。現況の経済の疲弊は、これまで当たり前だった社会構造を再生できるのか。国際的な経済や人との交流はどうなるのか。東京一

極集中型社会が良かったのか。雇用者を取り巻く権利や雇用状態がどうなるのか。など多くの課題が山積みだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)

各家庭に配布されたマスク、各界指導者の着用実態が気になってしまふ。

